

安倍晋三首相、異次元の大規模「金融緩和」の出口戦略を語る

安倍晋三首相は「自民党総裁選の討論会」において「アベノミクスに批判的な考えの石破茂元幹事長」に対抗して、「日銀の大規模な金融緩和策」は「ずっとやっていいとは思わない。何とか私の任期のうちに（縮小への方向転換を）やり遂げたい」と財務省の息のかかる石破茂元幹事長へのリップサービスを含め、「2021年までの次の総裁任期中に正常化の道筋を付ける」意欲を表明した。

実際には「金融緩和の副作用」など何

もないのだが、「金融緩和の副作用」という言葉をわざわざ持ち出し、ナーバスな向きに配慮を示した格好。

しかし、「2%の物価上昇目標」はいまだ達成されていない。

異次元の大規模「金融緩和」は力強さを欠き、あと3年で「出口」を描けるかは疑問だ。

一方、来年10月に迫る「消費税増税10%」は、わが日本経済を未曾有の不景気に落とししかねず、これは確実なのだ。



自民党総裁選の候補者討論会に臨む安倍晋三首相（左）と石破茂元幹事長（右）